

# 童話の教育的價值

川村女學院小學部主事

田 中 兵 治

世には童話とお伽噺を同視する者もあり、又全く前者と後者は別個のものであると論ずる者もある。又或る者は兒童向のお話即ち兒童が話したり、聴いたりする特有のお話の總てを普通一般的のお話と對照して漠然と考へてゐる者もあるやうである。然し私は童話とは兒童の心靈の糧となるお話即ち、兒童の徳性、知力、情操等を啓養する力を有し、以て兒童の心靈に完美的な、全一的な發達を助長する物語を意味するものと思考したのである。故に、妖女、巨人、魔物等超人間的性情能力を備へた超自然的靈物を中心とした興趣豊富な教訓の廣汎なお伽噺も、生物若くは無生物を借用して、豫めねらつてゐるところの道德的教訓を兒童の心に滲透させようとする寓話の如きものも、又滑稽諧謔可笑味によつて無邪氣な、ゆつたりした氣分を誘起させる所謂興味を中心とした滑稽譚笑話の如きもの過去に於て實際に存したる人物、若くは實際に起つた事象を中核とした歴史譚や、一定の場所、時代、人物等が確定した地方的なロマンチックな物語である傳説及び神話の如きものや、自然界の事象及び現象を子供向の物語風に説明した自然界の物語、その他、現實世界に日常存し、若くは發生した事實を中心として、兒童の知力、徳性若くは情緒を啓發する子供向の物語の總てを廣義に童話と解釋したのである。隨つて此處に論ずる童話の教育的價值も此の廣義の範圍に於いて考察したものと御承知置きを願ひたいのである。

主知主義、偏知主義教育の反動として、我が國の教育界一般の傾向は、情操の陶冶、特に情操の教育が力説され、所謂藝術教育が高調されるやうになつた。之は我等兒童教育に従事する者の齊しく賛意を表するところであると共に、大いに研究を進め、實際上に效果あらしめるやう努力せねばならないことである。世は文化の發展と共に一面、所謂世知辛い、乾燥無味な、唯生きればよい三日夜齷齪し、物質的慾望に驅られ、淺猿しい生活の奴隸の如く、それ自身全く盲目となり、吾人人間の獨特の價値であり、誇りである精神生活、内的生活を忘れ、人生の豐潤な使命を棄て、顧みず、恬として怪しまざるものゝ多きを見て、竊かに歎息せざるを得ないことが多いのである。低級なる慾望満足、自己本位な利己主義。唯目前の愛に溺れて高遠な理想への邁進を忘れ、見る／＼愛兒を奈落に墮落せしめつゝあるのである。私は之が救済の根本策は完美全一な心、圓滿なる徳性、知識、情操の啓培にあることを信ずるのである。此の意味に於ても童話の教育的價値の尊ぶべき力あるを思ふものである。

## 三

兒童は童話を愛好すること極めて切なるものがあることは周知のことである。何故に斯くも愛好渴望するのであらうか。私は先づ兒童の心理生活に微妙なる調和關係あることを見るのである。兒童は想像と活動と自由を愛好する。又動物を好み、探求性に富んでゐる。彼等の日常生活の實際を見ても、あらゆる事物現象に對する好奇と穿鑿とは大したものである。童話の内容は是等の諸要素をその生命として成立してゐる。即ち兒童の喜ぶもの、欲求するものが、盡く童話の内容となつてゐる。兒童の自由奔放な想像、潑刺たる活動や探求性、好奇心の満足等は童話の世界に於て無條件に、無制限に容易に充分に提供され遂行出来るのである。そこに無上の興味を感ずるのである。「童話の精髓は、精靈的世界に於け

る自然生活である。そこには普通の子供が普通ならぬ環境に活動し、若くは普通ならぬ子供が、自然な環境のうちに活動する。ミ、エフ、クリーデイ氏が言つたが、實際、童話の内容に於て、赤い帽子、白い靴、犬、猫、馬等極めて親密なもの、山、川、舟、喜び、悲しみ等親しみ深いものミ、之に反した異常なもの魔物、巨人、小人、妖女等未知な事物ミの微妙な錯綜結合が大きな魅力を表はして兒童の想像を満足させ、好奇心を刺戟し、大きな喜悅ミ興趣ミを感じしめるのである。そこに又、無邪氣な、明るい可笑味や、滑稽な満足を與へ、愉悅を味はしめる。童話の教育的價値の第一として興味ミ愉悅を與へ以つて彼等の心を調和的にし、のびやかに明るくし、健やかにすることを舉げたいのである。

次に童話は豐潤な情緒を啓養し、想像力を發展せしめることを舉げたいと思ふ。童話はさまざまの事件ミ境遇ミの錯綜であり、連續展開である。惡辣な狼に食はれた七疋の小山羊が、慈愛籠つた母山羊に救ひ出され一疋一疋無事に狼の腹中から飛び出て來る時の喜ばしさ。深山に遁れた美しいお姫様が、七人の小人の家で色々介抱を受けたが、遂に繼母の術策に陥つて斃れ、泣く泣く死骸を硝子の棺へ納めるさいふ悲しい哀れな「雪姫」の話。親指ほごの大きさしかないが大へん利口な男の兒が盜賊を驚かしたり、牛の腹中に這入つたりして、しまひに兩親の膝下に無事歸つて來るさいふ笑ふべき面白い「指男」の話等其の他恐るべきもの、怒るべきもの、愛すべきもの、尊ぶべきもの等ありあらゆる情緒的葛藤の一大渦巻をなして起伏してゐる點は、確かに兒童の情操を陶冶する啓養所ではないか。又豐富な自由な想像的要素を以つて兒童の思を無限の自由境、所謂彼等の第二の世界に悠遊せしめるのである。想像は實に子供の創作的活動即ち表現や造形ミ密接な關係があり、想像なき所藝術なしさいふ位藝術の創作愛用に缺くべからざるものであることを思へば、童話の教育的價値の大なるこゝ切實に覺ゆるのである。

巨人や小人、魔女や野獸、善心ある妖魔、甲冑燦爛たる勇士等超人間的な、超經驗的な人物が出没して、低俗卑小な感

性や悟性を没却した放奔自由な行動を恣にせしめ、現實世界の有限な經驗の束縛から解放せしめ以つて彼等の想像力を無限に發達させる。例へば有名なグリム童話集中の「赤帽子」の如き、赤い帽子のよく似合ふ可愛い女の兒が、森を通つて、病氣のおばあさんをお見舞する途中で狼に出會ふ。奸智に長けた狼は女の兒をだまして、道草を食はせて置き、先廻りして、おばあさんを食へ、後から來た女の兒をも食へてしまつて、ぐつすり寢込んだ處を獵師に殺される話。怖ろしい魔女が出て來るのでは二人の兄と妹とが繼母のために淋しい山中に棄てられ、魔法で建てたお菓子の家へ、おびき寄せられて魔女の手中に陥り兄が既に閉ぢ込められて食べられてしまふところを、妹が隙を覗つて魔女をバン焼き竈へ突き入れて殺し、寶を澤山とつて、無事父の所へ歸るこいふ「ヘンゼルとグレーデル」。或は、王女が豫言通りに十五の歳に指を鉤錘でさすき、王女は更なり、その兩親、廷臣、家畜や蠅に至るまで百年の長いねむりに陥るこいふ「薔薇姫」や、「ホルレ夫人」で落した絲卷をさりに井戸に落ち込んだ少女が溺れると思ひの外、ふと正氣にかへるこ、太陽が赤々と輝いて、一面そこの中にいろ／＼の綺麗な花が咲き亂れてゐるたなぎ、アンデルセンの少女が穿くこ踊り狂ひ、穿いたまゝ足を切るこそれも踊り廻るこいふ「赤い靴」の話、なかへ這入るこ勝手に好きな處へ飛んで行けるこいふ「飛ぶ靴」の語なき「アラビヤ夜話」の空を走る馬の話及び多くの冒險談。ハウフの「幽霊船」「ファトメ」等は兒童を有頂天にならしめるものである。第三は童話は兒童の知力と觀察力とを啓發するこである。童話は、一個の藝術として、事物現象を極めてよく具象的感覺的に表現するから、實際の世界でほんやりと眺めてゐるものを、童話の世界から刺戟影響を受けて一種の親しみを以つて明確に觀察し、確實な知識を收得するがある。イソップの話を知つた兒童が、狐と犬の賢愚を論じ、力の強弱を議論したり、鳩と烏に一種の親しみを以つて話しかけたりしてゐる兒童をよく見るこがあるであらう。

次に道德感を深めるこ。之は一部の者をして童話の有する本質的要素中最大重要なものとして尊ばれる價值であ

る。教訓的物語の多くは實に此處に中心點、その力點を置かれたものである。多くの童話中に、よく家族的關係や社會的關係が描き出され、その中に善惡兩様の極めて多種複雑な行爲動作が起伏して生滅してゐる。然しその間に嚴たる道德律が行はれて、その行爲はその價値に従つて正當に判斷され、正しき應報を受けてゐる。「童話のうちには、最も怖るべき紛糾が含まれてゐるものが多い」ミ道破したことを聞いたことがあるが實際、童話は行爲の價値判斷は曖昧ではない。猿蟹合戦や花咲爺に於ける善い爺さんミ悪い爺さんの所業等明瞭に勸善懲惡の趣旨がうかゞはれてゐるではないか。お話の中で正善なものミ邪惡なものミの行爲價値が倒錯せられてゐるものもあるが、それは一時的であつて、終局に至るもの一つとの調和した完美な世界に復して、善者はよく報いられ、惡者は悪く報いられ、因果應報の理路整然ミ示されてある。此の特質は兒童の道德感を深化するに大きな力ミなつてゐると思ふ。

其の他、美感の啓培、高尚なる美の感化も大なる童話の教育的價値であると思ふ。最後に、童話は時間的、空間的に大きな自由な廣がりを持つてゐて、神話の或ものは、宇宙國土の創造、人類の創成を物語るものさへある。或る童話は、太古、上古、中世紀、現代、またあるものは未來に及んで語つてゐる。又世界に於ける多くの人種、動植物を物語り、無生物にまで廣汎に及び、地方的、國家的のものも多くある。こんな風で廣く人類全體の親愛感を養ふばかりでなく、動植物及び無生物に對する理解ミ同情ミを深め博大な愛に目覺めさせ、人生の部分的、偏倚的な固陋な表現でなく、圓滿博大な愛に生れた、全一的な人類生活を營ましむることを教へる偉大な價値あることを高唱して擲筆する。